

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 事業名 | 佐久平地域まるごとキャンパス事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 佐久市 (佐久市中込 3076 番地) |
| 事業区分 | (1) 地域の協働の推進に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1, 599, 805円 (うち支援金: 1, 279, 000円) |

事業内容

佐久地域に在住し、又は通学する高校生・大学生等が、市民活動団体・NPO 等が提供する活動プログラムに参画し、地域課題を学び、地域の人たちと一緒に考え、自ら行動することで、地域を知り、地元への愛着心を醸成し、将来の佐久地域への定着や就業へつなげる。

- ・活動プログラムの提案募集：5月上旬
14団体14プログラムの提案
- ・参加学生の募集：6月中旬
- ・活動プログラムの実施：8月から2月まで
14プログラム実施 延べ104名が参加
- ・フォーラム（活動報告会）の開催：2月
学生・市民活動団体・一般ほか 109名が参加

事業効果

- ①学校では学べない地域のことを知り、地域の魅力に気づき、多くの学生が今までより佐久地域を好きになり、将来住み続けたいと思うようになった。
- ②地域の大人たちと一緒に考え、行動することで、多くの学生が今後もまちづくりにつながる地域活動に参加したいと思うようになり、まちを良くしたいという主体性を育てることにつながった。
- ③普段、なかなか接点のない学生と地域や市民活動団体・地元企業等が協働することで、学生ならではの発想が生かされ、地域や団体の活動が活性化した。

今後の取り組み

- ・学校訪問などで高校・大学と密に連携しており、小海高校の2学年生徒に全員参加いただくなど着実に参加者の増加につながっているため、これまでの実績をもとにまだ参加者がいない高校へも積極的な情報提供を行い、引き続き連携強化を図り参加者増加を目指す。
- ・令和4年度に初めて地元企業がプログラム提供したことでほかの企業の関心も高まっており、今後も地元企業によるプログラム提供を増やしていくことで、学生が企業を知るきっかけを作り、Uターン就業に直接的に結びつけていく。
- ・学校や商工団体・企業など様々な主体と徐々に協力関係を築きつつあり、今後も新たな協力者を増やしていく中で、協働で事業継続できる体制づくりを検討していく。



【活動報告会の様子】

【目標・ねらい】

- ①高校生・大学生の地元への愛着心醸成、Uターン率向上
- ②将来の担い手育成
- ③地域・団体の活性化

※自己評価【A】

【理由】

・活動を通して、より佐久地域が好きになった学生が 54.5%、佐久地域に住み続けたい、戻ってきたいと思うようになった学生が 53.3% と多くの学生に愛着心の醸成や Uターンのきっかけにつながる心情の変化がみられた。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 事業名 | 町民から移住希望者まで皆で立科町の未来を考える空き家改修プロジェクト |
| 事業主体 (連絡先) | 立科町企画課地域振興係 (電話：0267-88-7315) |
| 事業区分 | (1) 地域協働の推進に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,310,673 円 (うち支援金：1,048,000 円) |

事業内容

立科町には民間のアパートが少なく、移住希望者が住む場所を見つけられないために移住をあきらめてしまうという現状があり、住宅不足を解消する必要がある。

一方で、今後30年間で町内の40%近くが空き家になるという推計がでており、空き家の倒壊や火災、治安の悪化といったリスクを解消するため空き家の活用を促すことが必要である。そこで、空き家の改修方法を学んでもらい空き家活用の機運醸成を図るため、全5回(8日間)の空き家DIYワークショップを開催した。



【ワークショップの様子】

【目標・ねらい】

- ① 空き家の改修方法を学ぶ機会の創出
- ② 関係人口の創出
- ③ 移住者向け住宅の確保

※自己評価【 B 】

【理由】

計画どおり事業を実施し、空き家問題について多くの人に知ってもらうことができた。今後、空き家活用の輪が広がっていくようにさらに周知していく必要がある。

事業効果

35名の参加(8日間累計82名)と24名の見学があり、町民から移住希望者まで幅広い世代の方に空き家DIYについて学んでもらうことができた。

さらに、町のSNSの他に、テレビ局や新聞社に取材・放映されたことで、空き家問題や空き家活用の取組を多くの人に知ってもらうことができた。

また、しばらく使われていなかった町の教職員住宅(2棟)を今回DIYの舞台として活用し、移住促進住宅として整備したことで住宅不足の解消が図られた。

今後の取り組み

- 今年度の実施で得た知見を活かして、主に以下のことについて取り組んでいく予定である。
- 町内の空き家を町で借り上げてDIY改修し、移住者向け賃貸住宅として整備していくスキームの構築。
 - 空き家の活用事例を積み上げ、さまざまな活用方法を空き家バンクのウェブサイト等で紹介することで、空き家バンクの物件登録や利用の促進を図る。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 事業名 | 東信州中山道発「信州中山道魅力発信連携事業」 |
| 事業主体 (連絡先) | 東信州中山道連絡協議会 0268-68-2651 長和町商工会 |
| 事業区分 | (1) 地域協働の推進に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,710,420円 (うち支援金:777,000円) |

事業内容

長野県内の中山道が通る全地域との連携を図るべく、全体会議を計画しましたが、長引くコロナ感染拡大の影響により、本年度は、東信州中山道の行政、経済団体、観光協会及び沿線のガイドを行う案内人や案内人を目指す方、興味のある一般の方との合同セミナー、全体会議を開催して、観光資源としての問題点や課題をあぶり出して、今後の東信州中山道の誘客、観光振興に役立て行くことを目的に、「信州中山道サミット」を実施しました。内容としては、第1部基調講演として志田威先生の講演会を、第2部パネルディスカッションとして、地元宿場を代表する6名の方と志田先生による討論会形式と致しました。

事業効果

○ハイブリット方式による、オンライン配信を実施し、合計101名の方に参加してもらった。また、当日都合が悪かった人のために、ホームページ上に動画のアーカイブ配信を行って、現在も幅広い方にご視聴いただいている。

○当日の資料入れとして、何度でも使用可能な布製のエコバッグを作成し、配布を行って好評であった。

○ガイドの方達に、正しい歴史の認識と次の世代への継承問題をどうするのか考える機会となった。

今後の取り組み

現在ある歴史的な建造物の維持・管理も大変な課題ではあるが、何といたっても次の世代の方に、中山道にどうやって興味を持ってもらったか、案内人としての知識をどうやって継承していけば良いかが、大きな問題点であることが認識されました。来年以降は、次の世代の皆さんに向けた事業を計画して参ります。

また、コロナ感染状況によりますが、長野県全体の中山道に関わる皆さんとも情報交換を図る機会を考えて行きます。



【会場風景】

【目標・ねらい】

- ① 官民一体となった、東信州中山道観光振興推進体制
- ② 案内を行うガイド人の資質向上
- ③ コロナ禍におけるハイブリット方式のセミナー開催
- ④ 2050ゼロカーボンに向けた取組

※自己評価【 B 】

【理由】

東信地区5市町（佐久市、軽井沢町、御代田町、立科町、長和町）の関係者が、初めて一堂に集まったのセミナーで、現状の問題や課題を認識し、今後の観光振興を考える良い機会となった。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|--|
| 事業名 | 地域での防災食の普及 |
| 事業主体 (連絡先) | 一般社団法人洗楓座 長野県北佐久郡軽井沢町長倉 4688-28 (本社/東京都港区新橋 1-5-5 国際善隣協会 4B) |
| 事業区分 | (1) 地域協働の推進 (4) 安全・安心な地域づくり |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 475,131円 (うち支援金: 369,000円) |

事業内容

災害時に臨機対応できるように、「フェーズフリーの防災食」を、調理し食すること、つまり体験を通して学ぶことの取組を、御代田町中央公民館を会場として、地元の「NPO 法人まちの縁側なから」の協力を得て、次のように3回、実施した。7月の体験会・「フェーズフリーの防災食について」7月16日(土) 11:00~14:00 / 8月の体験会・「地元食材を活かした防災食について」8月20日(土) 11:00~14:00 / 9月の体験会・「災害時を想定した炊き出しを含む防災食について」9月17日(土) 10:00~14:00

事業効果

日常時と災害時の意識の差をなくする防災概念は「フェーズフリー」と呼ばれているが、これを調理や食事に適用することを目的としたが、「フェーズフリーの防災食」の専門家・飯田和子氏の指導により体験することができ、参加者に理解を進めた。プラスチック製の袋で炊飯ができ、多種の調理も同様にできることが分かり、広く応用ができる。アンケート結果によれば、自身の理解を近隣の方々に伝えたいとのコメントがあり、小さな広がりがあった。

今後の取り組み

本取り組みは、防災の新しい概念である「フェーズフリー」を、御代田町はじめ佐久地域に知って頂く機会になったので、さらに家庭を中心に広めるために、「フェーズフリーかるた」をつくり、日常性を高めることを考えている。その切り口において「防災食」は、災害時でも元気の源である食に関するものであり、楽しみながら、「フェーズフリー」を身に着けることができる。そうした取り組みを行いたい。

【調理の様子】



【目標・ねらい】

- ① 災害時も食事は元気の源
- ② いざというときの食事に関心を高める
- ③ 日常時と非常時の意識の差をなくする「フェーズフリー」を広める
- ④ 「防災食」を体験して理解する

※自己評価【A】

【理由】

- ・参加者には、「フェーズフリー」や「防災食」の必要性や重要性を伝えられた。
- ・調理&試食のワークショップは楽しく&有効で、共感をえた。
- ・参加者は少なかったが、調理実習には15人くらいまでが適当。
- ・御代田の取り組みが、旧軽井沢の幼稚園保護者向け体験会の開催を導き、開催された。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---------------------------------|
| 事業名 | ミヨタのデザインプロジェクト |
| 事業主体 (連絡先) | ミヨタデザイン部 |
| 事業区分 | <u>(1)地域協働の推進</u> |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 2,340,246 円 (うち支援金：1,737,000 円) |

事業内容

メディア・デザインワークショップ・イベントによる3つの軸となる地元コンテンツの魅力・創出活動。町のコンテンツづくりには、【機会・情報・場所】となる土壌づくりが必要でありながら有形文化財の少ない御代田町において、人知的財を活かす土壌を醸成し、町の魅力づくりと活性化につなげていく。



A 情報発信コンテンツ・メディア発信 (通年毎月発信)

ミヨタデザイン部による毎月のワークショップやフリーマーケットの情報発信。

B ミヨタデザイン部によるデザインワークショップ

ミヨタデザイン部メンバーによる職能を生かしたデザインの面白さを伝えるワークショップを計10回開催。

C フリーマーケット・シンポジウムイベント

ミヨタデザイン部による御代田のポテンシャルを活かすための面白さを考える・伝えるフリーマーケット・シンポジウムイベントを7月と11月、2月の計3回開催。

事業効果

【情報メディア登録数・閲覧数 2022年2月時点】

①ミヨタデザイン部公式 note 閲覧者数 15,000 名、
お気に入り 350 名

ミヨタデザイン部インスタグラム フォロワー226 名

②ミヨタデザイン部公式ライングループ 登録者数 54 名

③ミヨタデザイン部ワークショップ 参加人数 90 名

【目標・ねらい】

- ①メディア閲覧数の増加
- ②公式ライングループ参加者の増加
- ③ワークショップ参加者の増加

【R4 年度終了時 目標数値】

ミヨタデザイン部公式 note 閲覧者数 45,000 名、お気に入り 1,050 名

ミヨタデザイン部インスタグラム フォロワー678 名

ミヨタデザイン部公式ライングループ 登録者数 162 名

ミヨタデザイン部ワークショップ 参加人数 270 名

【R4 年度終了時 3 月実績】

ミヨタデザイン部公式 note 閲覧者数 44,500 名、お気に入り 950 名

ミヨタデザイン部インスタグラム フォロワー693 名

ミヨタデザイン部公式ライングループ 登録者数 134 名

ミヨタデザイン部ワークショップ参加人数 207 名

ミヨタデザイン部フリマ出店人数 21 組

※自己評価 【 B 】

【理由】

本格的に活動を始めた初年度として目標数値は達成した。

それぞれが移住者であり慣れないなかでの場づくりネットワークの構築など、コロナ渦のなかでうまくいかないこともあったが来年はこの実績を活かせる土台ができた。

今後の取り組み

プラットフォームとネットワークを活かした地域事業の連携。

地域魅力創出事業の立ち上げ。

居住者と移住者の交流機会創出。

R4 年度で構築したネットワークとプラットフォームを活かして町での活動フィールドの充実化。

他団体との連携活性化企画の立ち上げ。またこれらの事業による移住者向けの窓口の開設。

1 メディア活動

SNS を活用した広報による全国への周知。御代田へ興味をもつ関東近郊・都内在住の方への情報提供機能の充実化。周遊マップ制作と絡めた地元店舗などへのインタビュー・記事化。

2 ワークショップ活動

デザインウィークと連動したアート・デザインワークショップの充実化。

移住者向けの地域事業者や住民を講師に迎えた連携イベントの開催。

3 フリーマーケット・イベント

参加店舗の拡大と音楽・パフォーマンスなどを交えた充実化。

4 ミヨタデザインウィーク

地域事業者と連携・連動した地域魅力創出事業の立ち上げ。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | 健康長寿足育サポート事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 佐久市役所 市民健康部 健康づくり推進課 0267-62-3524 (直通) |
| 事業区分 | (2) 保健、医療、福祉の充実 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,357,545円 (うち支援金: 1,086,000円) |

事業内容

「世界最高健康都市」を目指した「新しい保健活動」として、足・歩行に着目した健康づくりである、「足育」を推進し、幅広い年代が、生涯健康であり続けるためのサポート事業を実施した。

- ・市内小学校向け足育教室 (11校、延べ986名)
- ・親子向け足育教室 (親子16組、42名)
- ・地域向け歩行計測 (計6回、延べ64名)



【親子で足育教室のようす】

事業効果

・小中学生向けの教室は、昨年度より多くの学校に実施できた。また、足育とあわせて「食」についての講義をしたことで、自身の身体づくり・健康づくりを一層意識してもらった機会となった。

・今年度から実施した親子向けの教室では、親子での参加によって、保護者と子どもが楽しみながら「足」と「食」について学ぶ機会となった。

・地域向けの歩行計測では、歩行時の悩みを持っている方も多く、自身の歩き方を知ってもらい、より良い歩き方、歩行のための運動を学んでいただく機会となった。

【目標・ねらい】

- ① 「足育」の普及啓発
- ② 「足育」を通じて幅広い年代の市民が生涯健康であり続けること

※自己評価 【 B 】

【理由】

足・歩行からの健康を、より幅広い世代に啓発できた。また、「食」についてのアドバイスを追加したことで、トータル的に自身の健康について考える機会を創出した。

今後の取り組み

今年度の事業では、多くの世代・参加者に向けて足育の実施ができた。今後は、更に充実した足育推進のため、より広く市民が参加できるように検討する。

各教室でのアンケートで、「継続して実施をお願いしたい」という声をいただいております。今後も継続して事業実施を予定。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---------------------------------|
| 事業名 | 介護予防B型住民指導士の初級・中級・上級養成講座開催事業等 |
| 事業主体 (連絡先) | 介護予防住民指導者育成支援協議会 |
| 事業区分 | (2) 保健、医療、福祉の充実に係る事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,047,140 円 (うち支援金 : 837,000 円) |

事業内容

1 介護予防B型住民指導士の初級・中級・上級養成講座の開催

年度内に初級・中級・上級の資格を取得できるようプログラムやテキストを作成し、東信地区の地域住民を中心に呼びかけ、講座を実施

2 介護予防住民指導者フォーラムの開催

先進的な活動団体の取り組みの発表と意見交換を行い、広く行政を巻き込んだ住民指導者による介護予防の取り組みを考える機会を設けた。

3 地域の介護予防サービス団体との連絡調整

事業効果

・地域での通いの場であるサロン等での活動者、介護予防サービス実践者が20名以上増加

・通所型サービスB事業開催教室の増加

1市町村で令和5年度から教室開催が決定。

今後の取り組み

新たな介護予防B型住民指導士育成のための事業継続と、受講生や現在地域で活動している住民指導士のフォローアップ交流会をR5年9月に開催予定。

住民指導者フォーラムを開催し、介護予防の重要性や、各地域の介護予防の取り組みなどを考え、意見交換できる場を設けていきたい。



【講義風景】

【目標・ねらい】

- ① 住民主体による「通いの場」を提供・運営する住民指導士の養成
- ② 住民指導者フォーラムの開催

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・東信地区各地より受講生の応募があり、各地域で活躍する住民指導士の育成ができた。
- ・フォーラムにて多くの参加者が集い、介護予防事業の発展について考える機会となった。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | さく超元気フェスティバル |
| 事業主体 (連絡先) | 公益社団法人佐久青年会議所 長野県佐久市中込 2976-4 佐久商工会議所 館内 |
| 事業区分 | (2) 保健、医療、福祉の充実に係る事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,159,662円 (うち支援金: 927,000円) |

事業内容

佐久地域の健康寿命延伸を目指し、佐久大学や学生、スポーツ団体など健康に関わる団体と連携し、ニュースポーツやeスポーツ、プロスポーツチームなど特色ある様々なブースを展開、様々な健康へのアプローチで身体の健康はもちろん、心の健康へも取り組むフェスティバルを開催しました。

日時: 令和4年11月6日 (日)

9:30~16:00

場所: 学校法人佐久学園 佐久大学

一般来場者 896名

事業協力者 136名

合計 1032名

事業効果

- ① ご来場いただいた多くの方にアンケート結果より健康を意識またはより意識していただくきっかけを与えることが出来ました。
- ② eスポーツやニュースポーツなど新たな健康、コミュニケーションのツールとして提示、知っていただくことが出来ました。早速、事業をきっかけにピククルボールクラブに親子で入会された方がいるという報告もいただいております。また、佐久地域からプロリーグ参戦を目指す SAKU REGION を多くの方に知っていただく場ともなり、地域住民の方に新たな生きがいや楽しみを提示することが出来ました。

今後の取り組み

今回の健康に関わる団体に協力していただき事業を実施いたしました。普段から個々で積極的に地域貢献するために活動されている団体が多いですが、このように一堂に会してということは、あまりないということで来年以降の開催の要望も多く、また内容としても継続することが重要な点から来年以降の実施も検討しております。

また各団体にとって、今回の事業での学びが多くあったということで、日頃の活動に繋がる良い機会となりました。佐久青年会議所としても、沢山の学びがありました。今回繋がった各団体との関係を維持し、今後の活動においても、お互いに協力し合える体制を整えたいと考えております。



【事業当日会場の様子】

【目標・ねらい】

- ① 佐久地域の健康寿命の延伸のきっかけを与える
- ② eスポーツやニュースポーツなどの新たな健康、コミュニケーションツールを知っていただく

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・約 1000 名が参加し事業を行えたため
- ・アンケートで本事業が「健康を意識するきっかけとなった」と答えた来場者が目標値の 80%を越えたため
- ・多くの団体と協働で事業を開催することが出来たため

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | 軽井沢町の観光資源を利用した住民参加型”インターバル速歩“実施のためのご当地スマホアプリの開発 |
| 事業主体 (連絡先) | 国立大学法人信州大学 長野県松本市旭 3-1-1 |
| 事業区分 | (2)保健、医療、福祉の充実に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 5,356,991 円 (うち支援金: 4,267,000 円) |

事業内容

信州大学では「インターバル速歩」を考案し、その効果も確認してきた。実践し、継続すれば期待する効果が見込めることが分かっているが、運動を始める、運動を継続し習慣化させることが課題の一つである。運動の介入、継続を目的にゲーム性を取り入れ、楽しみながらできる仕組みを開発する。

- ①位置情報搭載アプリの作成
- ②チェックポイントの選択
- ③インターバル速歩体験会の実施
- ④推奨コース掲載地図の作成



【インターバル速歩体験会の様子】

【目標・ねらい】

- ①位置情報搭載アプリの作成
- ②チェックポイントの作成
- ③インターバル速歩体験会の実施
- ④推奨コース掲載地図の作成

事業効果

- ①位置情報搭載アプリの作成
GPS 機能と連動し、トレーニング中の位置情報を取得する機能を搭載したアプリを製作した。
- ②チェックポイントの選択
軽井沢観光協会の協力のもとチェックポイントを選択した。
- ③インターバル速歩体験会の実施
町民を対象に1ヶ月のインターバル速歩体験会を全6回実施した。
- ④推奨コース掲載地図の作成
インターバル速歩体験会に参加した方の GPS データと選定したチェックポイントを集計しおススメコースを選定して地図を作製した。

※自己評価 【 A 】

【理由】

- ・コロナ禍で他のイベントが中止になる中、安全に考慮して予定していた体験会が全て実施できた。
- ・予定通りにアプリの開発、体験会、地図の作成ができた。

今後の取り組み

軽井沢町の観光資源を利用したインターバル速歩の促進のために、軽井沢町観光協会、軽井沢町社会福祉協議会と連携してインターバル速歩の継続に繋がる機能を搭載したアプリの開発をし、体験会を実施してインターバル速歩を拡げていきたい。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | 島崎藤村生誕150年記念特別企画展事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 小諸市 (小諸市教育委員会事務局文化財・生涯学習課小諸市立藤村記念館 小諸市丁315番地1) |
| 事業区分 | (3) 教育及び文化の振興に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,071,448円 (うち支援金: 773,000円) |

事業内容

- 島崎藤村生誕150年にあたり、改めて地域住民をはじめ全国の藤村ファンに目を向けてもらい、藤村文学に触れてもらう機会とするため、特別企画展を開催。また、若い年齢層に関心を示してもらえるよう、DMM GAMESが配信するゲーム「文豪とアルケミスト」と特別企画展開催期間中にタイアップを行った。
開催期間 令和4年10月1日～令和4年12月18日
開催場所 小諸市立藤村記念館(懐古園内)
- 関連事業
 1. 藤村文学講座50回記念特別講演会
令和4年11月2日(水)
小諸市市民交流センター ステラホール
堀井正子氏(文学研究家)「それぞれの『夜明け前』」
 2. 藤村詩歌曲演奏会
「紅葉の中・箏で奏でる藤村詩の世界」
令和4年11月3日(木) 小諸市立藤村記念館前庭
箏姫の会、小諸草笛会、小諸市立東小学校児童



【 展示の様子 】

【目標・ねらい】

- ① 期間中の入館者数の増加
- ② 若い年齢層の来館者の増
- ③ 藤村文学に対する関心度の高まり

※自己評価【 B 】

【理由】

- ① 特別企画展期間中の入館者数が1%増加した。(合計9,977名、前年度同期間中の入館者数 9,890名)
 - ② 60代未満の入館者が増加した(特別企画展期間中に実施したアンケート回答者のうち、～30代18%・40～50代32%・60代～50%)
 - ③ 島崎藤村の知名度は年代が下がるにつれて低下しているが、特別企画展観覧後は「作品を読みたい」との感想が多く見られ、関心を高めることができた。
- ① 特別企画展期間中の入館者数は前年度比1%増で、前年比10%増の目標には届かなかったが、新型コロナの感染状況が悪化した状況にあってもやや増加した。
 - ② 例年60代以上の入館者が多かったが、それ以外の年代の入館者が増えた。(アンケート回答者のうち50%が60代以下だった。)
 - ③ 特別企画展観覧後の島崎藤村・島崎藤村作品への興味は各年代とも「興味をもった」・「やや興味をもった」の回答が75%を超えており、島崎藤村への関心を高めることができた。

今後の取り組み

今後とも観光局等と協力し、若い年齢層の来館者の増加につながる企画・取り組みを行いたい。

島崎藤村と佐久地域のつながりをテーマにした企画展を今後も開催していきたい。

引き続き春・秋の年2回、藤村詩歌曲の演奏会を行い、市内小学生の参加によって藤村を知ってもらおうきっかけ作りを継続していく。